

議員提出議案第 19 号

医療体制の充実を求める意見書

さいたま市は、平成 22 年において医師数が人口 10 万人当たり 160.7 人、既存病床数が人口 10 万人当たり 662 床と、いずれも政令指定都市中最も少ないのが実態です。また、産婦人科医や小児科医の確保も困難な状況になっています。救急体制もせい弱であるため、第一線で受け入れている医師の勤務環境は過酷なものになっています。さいたま市の医師数の不足と病床数の不足は、市民の命と健康を守る上で早急に改善すべき課題です。

しかも、埼玉県においては国公立大学に医学部が無く、地域医療に従事する医師養成は他県に依存していると言わざるを得ない状況です。昨年 9 月には、埼玉県議会の全議員が名を連ねる「県立大学医学部設置推進埼玉県議会議員連盟」が発足し、上田清司埼玉県知事に対し要望書を提出するなど、埼玉県内の国公立大学に医学部の新設を求める声は広く存在するところです。

また、病床数の不足については、人口に比べて基準病床数が低水準のままになっているところに原因があります。基準病床数を大幅に増やすことはさいたま市にとって喫緊の課題となっており、そのためにも医師の確保は欠かせません。

よって、国においては、医療体制の充実と医師確保のため、以下の施策を進めることを強く求めます。

- 1 埼玉県内の国公立大学に医学部の新設を認めること。
- 2 埼玉県の基準病床数を大幅に引き上げる措置を講じること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出します。

平成 24 年 10 月 23 日提出

提出者	さいたま市議会議員	萩原章弘
	同	神崎功
	同	高橋勝頼
	同	細沼武彦
	同	山崎章
賛成者	さいたま市議会議員	新藤信夫
	同	高柳俊哉

同	小森谷	優
同	土井裕	之
同	加川義	光